

令和7(2025)年度 開講科目の授業題目・内容と担当教員

目 次

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
25001	外国語仏教学論著講読	大久保 良峻 特任教授	1
25002	外国語仏教学論著講読	落合 俊典 教授	2
25003	外国語仏教学論著講読	斉藤 明 特任教授	4
25004	外国語仏教学論著講読	池 麗梅 教授	6
25005	外国語仏教学論著講読	デレアヌ フロリン 教授	8
25006	外国語仏教学論著講読	幅田 裕美 教授	10
25007	外国語仏教学論著講読	藤井 教公 教授	12
25008	論文指導	大久保 良峻 特任教授	13
25009	論文指導	落合 俊典 教授	14
25010	論文指導	斉藤 明 特任教授	16
25011	論文指導	池 麗梅 教授	17
25012	論文指導	デレアヌ フロリン 教授	18
25013	論文指導	幅田 裕美 教授	19
25014	論文指導	藤井 教公 教授	20
25015	仏教文献学方法論	落合 俊典 教授	21
25016	仏教文化学方法論	宮本 久義 講師	23
25017	南・東南アジア仏教文献学研究	デレアヌ フロリン 教授	25
25018	南・東南アジア仏教文献学演習	デレアヌ フロリン 教授	27
25019	南・東南アジア仏教文献学演習	Alexis Sanderson 客員教授	29
25020	内陸アジア仏教文献学研究	斉藤 明 特任教授	32
25021	内陸アジア仏教文献学研究	幅田 裕美 教授	34
25022	内陸アジア仏教文献学演習	斉藤 明 特任教授	35

科目番号	科目名	担当教員名	ページ
25023	内陸アジア仏教文献学演習	幅田 裕美 教授	37
25024	東アジア仏教文献学研究	大久保 良峻 特任教授	39
25025	東アジア仏教文献学研究	落合 俊典 教授	40
25026	東アジア仏教文献学研究	池 麗梅 教授	42
25027	東アジア仏教文献学研究	藤井 教公 教授	44
25028	東アジア仏教文献学演習	大久保 良峻 特任教授	45
25029	東アジア仏教文献学演習	落合 俊典 教授	47
25030	東アジア仏教文献学演習	池 麗梅 教授	49
25031	東アジア仏教文献学演習	藤井 教公 教授	51
25032	近現代仏教研究 (仏教学と生命倫理)	土山 泰弘 講師	53
25033	近現代仏教研究 (仏教学と環境問題)	土山 泰弘 講師	55
25034	民俗学	鈴木 正崇 講師	57
25101	仏教学特殊研究 (夏学期)	藤井 教公 教授 (代表)	59
25102	仏教学特殊研究 (冬学期)	デレアヌ フロリン 教授 (代表)	60
25103	日本語Ⅰ	宮田 聖子 講師	61
25104	日本語Ⅱ	宮田 聖子 講師	63
25105	古文・漢文読解Ⅰ	田戸 大智 講師	65
25106	古文・漢文読解Ⅱ	小島 裕子 講師	67
25107	サンスクリット語	宮本 久義 講師	70
25108	サンスクリット語 (中級)	須藤 龍真 講師	72
25109	古典チベット語	石川 巖 講師	74

専門科目

科目番号	25001
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 特任教授
授業題目	諦観録『天台四教儀』を英訳で読む
授業の目的・概要	高麗の諦観が録した『天台四教儀』は、天台教学の概略を記した名著として知られている。その内容に関する問題点も指摘されているが、入門書としての揺るぐことのない地位を築いて来た。本書を英訳で読むことにより、天台仏教の用語に対する翻訳について考えてみたい。
到達目標	『天台四教儀』の英語訳によって、天台教学の基本を、広い視野から学び、習得する。
授業計画	巻頭から、全体を講読する。 夏学期 第1回 天台教学概説 第2回 『天台四教儀』概説 第3回～第15回 『天台四教儀』講読 冬学期 第1回～第14回 『天台四教儀』講読 第15回 総括
授業の方法	担当者による日本語での発表形式とする。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習する。予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	大正新脩大藏經 46 所収『天台四教儀』。David.W.Chappell、一島正真編 <i>T'IENT-TAI BUDDHIZM:AN OUTLINE OF THE FOURFOLD TEACHINGS</i> （第一書房）
参考文献	関口真大校訂『昭和校訂 天台四教儀』（山喜房佛書林） その他については、教場で指示する。
履修上の注意	原典の忠実な読みを心掛けてください。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25002
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	“隋書経籍志” 著録仏書の研究 (前年度のつづき)
授業の目的・概要	『隋書』32巻から35巻には「経籍志」が収載されている。ここに著録された典籍は、仏教と道教を除き総数が三万六千七百八巻ある。これは所謂漢籍であるが、その大半が日本へ将来されていたと想定される。ただ、10世紀藤原佐世撰『日本国現在書目録』には巻数にすると約一万七千巻しかないが、七寺蔵『一切経論律章疏集伝録并私記』巻上の巻首には右大臣が蒐集したという漢籍が十二分類され、その数三万九千巻と記されている。『旧唐書』や『新唐書』の芸文志とも比較しなければならないが、“隋書経籍志”は典籍目録として評価が高いにもかかわらず仏書研究は皆無である。よって本書に著録された仏書の研究を行う。 前年度出席しなかった学生は『隋書経籍志詳攷』の凡例解題を予め読破した上で参加すること。
到達目標	かつて塚本善隆氏が試みた『魏書』の「釈老志」と仏教内部資料との比較対照的研究は中国仏教史研究に画期的な展開をもたらしたと言っても過言ではない。仏教内部資料だけで構成された仏教史には、論争のために事実が誇張されていたり、あるいは無から有を作り上げたりすることさえ存した。正史との事実関係を確認する作業に始まり歴史的事象を明らかにして大きな成果をもたらしたことは評価に値する。 塚本善隆氏の方法論を用い、“隋書経籍志”にある仏書を仏教内部資料中に確認する。ついで確認できない仏書を取り上げ、種々様々な方法を駆使して解明を目指す。各自1点の未解明仏書を闡明にすることが出来れば合格点となる。これが到達目標である。
授業計画	夏学期①概説1：中国史における正史。②概説2：正史の中の『隋書』。③『旧唐書』芸文志。④『隋書経籍志詳攷』説明。⑤“隋書経籍志”の仏書研究。⑥“隋書経籍志”の仏書研究。⑦同2。⑧同3。⑨同4。⑩同5。⑪同6。⑫同7。⑬同8。⑭同9。⑮同10。 冬学期①夏学期の続き。“隋書経籍志”の仏書研究11。②同12。③同13。④同14。⑤同15。⑥同16。⑦同17。⑧同18。⑨同19。⑩“隋書経籍志”中の仏書の整理。⑪仏書の著者研究1。⑫仏書の著者研究2。⑬仏書の著者研究3。⑭全体の質疑応答。⑮まとめ。
授業の方法	テキストとして興膳宏・川合康三共著の『隋書経籍志詳攷』を使用する。本書の凡例解題等を一読しておくことが望まれる。『隋書』経籍

	志の講読を『隋書経籍志詳攷』を用いながら演習形式で行う。出席者は事前に下調べを行い、考察してくることが求められる。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所の発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習にはテキストデータだけの読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	興膳宏・川合康三著『隋書経籍志詳攷』（汲古書院。1995年）
参考文献	『隋書』（標点本『正史』） 拙稿「東アジア仏教写本研究拠点の形成の概要」（“いとくら”6号。2010年） 牧田諦亮監・落合俊典編『七寺古逸經典研究叢書』第6巻（大東出版社。1998年） 『大正新脩大藏經』55巻。 孫猛著『日本国現在書目録詳考』上中下3冊（上海古籍出版社・2015年）
履修上の注意	テキストが入手困難な場合には申し出てください。 研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型のウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25003
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	Bu ston, <i>History of Buddhism</i> (Chos 'byung) 講読
授業の目的・概要	ブトウン『仏教史』は Bu ston Rin chen 'grub (1290-1364) が 1322 年に著した作品である。チベットにおける貴重な仏教史として知られ、最終第 4 章にはチベットの後期仏教伝播期における最初の訳経論目録を置く。著者の Bu ston はまた、チベット大蔵經の旧ナルタン版(写本)のテンギュルを最終的に確定し、1334 年にシャル寺に納めたことでもよく知られる。 本書の前半部を占める仏教史部分は、第 1 章仏教概説、第 2 章インド仏教史、第 3 章(ブトウン以前の)チベット仏教史からなる。これら 3 章の翻訳は、今なお 1931 年に出版された E. Obermiller による英訳が広く利用されている。この授業では、同英訳とともに、Bu ston のチベット語文を基に読みすすめる。本年度は第 1 章(仏教概説)の p. 25 以降を扱う。
到達目標	仏教の教理と歴史の概要を英訳文およびチベット語原文で読み、考え、適確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1 The Merit of Studying and Preaching the Doctrine 2-3 The Merit of Study 4-6 The Merit of Study and Preaching Taken Together 7-10 The Merit of Studying and Preaching the Doctrine of Mahāyāna 11-12 Definition of <i>dharma</i> in the Sense of the Doctrine 13-15 The Various Aspects of the Doctrine 冬学期 1-2 Varieties of the Word <i>buddha</i> 3-4 Etymology of the Word <i>piṭaka</i> 5-8 Etymology of <i>sūtra</i>, <i>abhidharma</i>, and <i>vinaya</i> 9-11 Etymology of <i>śāstra</i> 12-15 Grammar, Prosody, Poetics, etc.
授業の方法	講義と演習を交えながら講読を行う。必要な関連資料は、随時配布する。参考文献ならびに関連研究は授業の中で紹介する。授業は英語を基本とするが、必要に応じて日本語でも対応する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。必要に応じて、個別に対面あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/

成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	毎回の授業の予習には3時間以上、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	E. Obermiller, tr., <i>History of Buddhism (Chos-ŏbyung) by Bu-ston</i> , Heidelberg 1931, repr. Tokyo: Suzuki Gakujutsu Zaidan, 1964. Lokesh Chandra, ed., <i>The Collected Works of Bu-ston</i> , Part 14 (Ya), Śatapiṭaka Series, vol. 64, New Delhi: International Academy of Indian Culture, 1971.
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25004
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	金曜日 2時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	方廣鋈著『大蔵経研究論集（上）』講読
授業の目的・概要	本書は漢文大蔵経の歴史を研究する上で必要不可欠とされる名著の一つである。本書の講読によって、写本大蔵経から宋元時代の刊本大蔵経に至るまで、中国と朝鮮半島における漢文大蔵経の成立と伝播を全体的に理解することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、受講者が漢文大蔵経の歴史を体系的に理解し、個々の大蔵経に対して独自の視点と問題意識を持って調査・研究を深めていけるようになることが目標である。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2-8回 写本大蔵経の編纂、種類と系統 第9-15回 開宝蔵刊刻をめぐる問題 冬学期 第1回 概説 第2-8回 天台教典の入蔵 第9-15回 第三種の契丹蔵
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻訳するだけでなく、その記述内容を分析して問題点を指摘した上で、関連研究の現状ならびに今後の展望についての受講者自身の考えも踏まえて発表してもらいたい。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	方廣鋈著『大蔵経研究論集（上）』、桂林：広西師範大学出版社、2021年。
参考文献	方廣鋈著『大蔵経研究論集（下）』、桂林：広西師範大学出版社、2021年。

履修上の注意	積極的な授業参加が望まれる。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25005
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	月曜日 4時限目
担当教員氏名	デレアス フロリン 教授
授業題目	現代研究と原典読解を通して学ぶ佛教の主要教義と語彙 (Learning Key Buddhist Doctrines and Terminology through Modern Studies and Classical Texts)
授業の目的・概要	今年度は、インドとチベットの密教に焦点を当てる予定である。夏学期は、欧米の代表的な学術論文を基にインドに於ける密教の歴史及びその思想を研究し、尚、この分野で用いられる主な英語の専門用語や表現を学習する。冬学期は、代表的な大乘經典や密教聖典のチベット語訳を読みながら、その英訳を試みる。
到達目標	● 密教の歴史と教理に関する基礎知識を深めること。 ● 近・現代佛教学に用いられる専門用語や表現、文体等を学ぶこと。 ● 現代語、主として英語の読解力や語彙力を向上すること。 ● 古典語、主としてチベット語の読解力や語彙力を向上すること。
授業計画	夏学期 (1) 授業の紹介・基礎知識 (2)-(4) Anthony Tribe, 'Mantranaya/vajrayāna – tantric Buddhism in India', pp. 143-153 in P. Williams 2012 (see below). (5)-(8) Anthony Tribe, 'Mantranaya/vajrayāna – tantric Buddhism in India', pp. 153-165. (9)-(12) Anthony Tribe, 'Mantranaya/vajrayāna – tantric Buddhism in India', pp. 165-175. (13)-(15) Anthony Tribe, 'Mantranaya/vajrayāna – tantric Buddhism in India', pp. 175-185. 冬学期 (1)-(5) チベット語訳に関する基礎知識 (6)-(9) 『般若心経』 梵文・蔵訳 (8)-(11) <i>Guhyasamājanidānakārikā</i> 梵文・蔵訳（抜粋） (12)-(14) <i>Maitrīpa, Premapañcaka</i> 梵文・蔵訳 (15) 年末テスト
授業の方法	● 夏学期の（１）及び冬学期の（１）～（５）は講義形式で行い、それ以外の授業は、学生参加型のセミナーとなっている。セミナーでは、参加者全員は、読む予定の箇所を予習し、課せられた宿題を準備する必要がある。 ● 冬学期の最後の授業中にて、期末テストを行う予定である。範囲や方法等に関する詳細は、授業中に説明する。

教員から学生へのフィードバック方法	● 原則として、口頭で指導を行う。 ● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（総点の70%）及び期末テスト（総点の30%）にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。
テキスト	● Paul Williams, with Anthony Tribe and Alexander Wynne, <i>Buddhist Thought</i> (2nd edition, 2012)
参考文献	● J. Silk, <i>The Heart Sūtra in Tibetan</i> (1994) ● A. Wayman, <i>The Guhyasamājatantra</i> (1977) ● Klaus-Dieter Mathes, <i>A Fine Blend of Mahāmudrā and Madhyamaka</i> (2015)
履修上の注意	● 授業は、原則として日本語で行われるが、必要に応じて英語等でも対応する。 ● 読解力としては、日本語（中級以上）のほか、英語（中級以上）やチベット語（初級以上）、サンスクリット語（初級以上）が望ましい。 ● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25006
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Richard Salomon, The Buddhist Literature of Ancient Gandhāra 講読
授業の目的・概要	本書は近年発見されたガンダーラ語写本の研究成果に基づく概説書である。本書の講読によってガンダーラ語資料について概観し、ガンダーラ仏教について理解することを目的とする。
到達目標	本書を講読することによって、写本の厳密な研究方法を学び、ガンダーラ地方の仏教の歴史を文献に基づいてに理解することを目標とする。
授業計画	夏学期 第1回 Introduction 第2-5回 The World of Gandhāran Buddhism 第6-10回 Buddhist Manuscripts, Buddhist Languages, and Buddhist Canons 第11-15回 The Buddhist Literature of Gandhāra 冬学期 第1-3回 Sūtra in Prose 第4-6回 Poetic Texts 第7-12回 Legends and Previous-Life Stories 第13-15回 Scholarly Commentaries and Debates
授業の方法	テキストで論述されている内容を概観し、問題点を議論する。研究対象となっている文献については適宜、原典および写本をあわせて参照し、講読する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	Richard Salomon, The Buddhist Literature of Ancient Gandhāra. An Introduction with Selected Translations. Somerville: Wisdom Publications, 2018.
参考文献	授業の中で紹介する。

履修上の注意	テキストが入手困難な場合には申し出てください。 サンスクリット語の基礎知識が必要です。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25007
科目名・単位数	外国語仏教学論著講読 4単位
科目ナンバリング	1-4 (1-5)
時限	木曜日 2時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	Kazuo Kasahara ed. <i>A History of Japanese Religion</i> 講読
授業の目的・概要	本書を講読して日本仏教成立の過程と、その発展の歴史、さらにその基盤としての日本宗教思想全体についての理解を深めることを目的とする。
到達目標	本書の講読によって新知見を増し、そこから発展して受講者自身が関連トピックを見つけ、文献資料を渉猟調査し、研究することによって自身の問題意識を拡充することを目標とする。
授業計画	前期第1～第15週までに第12章 Shugendō: The Way of Mountain Asceticism を読み終え、後期第16週～第30週に第13章 Tokugawa Shogunate and Religion の唯一神道の項目 (p.348) までを講読の予定。
授業の方法	あらかじめ担当者と担当箇所を決めて講読する。担当者にはテキストの記述内容自体について、あるいは、それに関連する事項、またその背後にある問題について、自身が考え、調べたものを発表してもらう。また、コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うこともあり得る。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（出席率を含む）にて通年で評価。オンライン授業の場合における課題提出も評価に加える。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間以上をかけること。
テキスト	教場でコピーを配布。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。担当者は発表原稿を人数分用意する。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25008
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 特任教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に関する全般を指導する。それぞれが興味を持つ分野からの題目設定、具体的な内容と執筆の方法、その他を教示しつつ、期限内の完成を目指す。
到達目標	先行研究を広く検討することで学界の水準を理解し、従来の研究を進展させることが目標となる。
授業計画	それぞれの進捗状況に合わせて、課題を与えつつ、指導する。
授業の方法	個別指導を基本とし、学位論文執筆上の相談や文章の添削等を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習する。予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	それぞれのテーマに応じて選択する。
参考文献	必要に応じて選択する。
履修上の注意	漢文文献の訓読による読解力を増強しつつ、原典に親しむようにして下さい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25009
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆におけるテーマ設定から内容の指導、体裁、参考文献の取り扱い方、提出までに必要な事項等を教授する。
到達目標	仏教文献学の方法を習得すること。仏教文献は様々な言語で書かれていることから基本的言語の習得の上に研究テーマを設定し、論文を書けるようになることが目標である。
授業計画	最初に研究テーマの設定に関して討論を重ね、具体案作成へ向けて、いくつかのレポートを作成していく。次いで受講生は、先行研究論文を読破し、先行研究の問題点についてレポートの提出が求められる。このレポートを基に新たな観点や新知見の可能性について論議検討し、研究テーマの絞り込みに努める。夏学期：①研究論文の書き方。②研究の方法論。③研究資料の探索方法。④外国語文献の探索方法。⑤研究テーマの選定。⑥複数の研究テーマ。⑦研究テーマのデッサン。⑧研究チャートの作成。⑨研究文献のフィールドワーク。⑩研究テーマ討論。⑪研究テーマ変更の方法。⑫研究会の案内。⑬学会の案内。⑭発表の方法。⑮発表。討論。冬学期：①発表と討論の方法。②討論の文句。③先行研究の徹底的解説。④外国語先行研究の解説方法。⑤当該研究者の見つけ方。⑥文字資料の扱い方。⑦活字本と刊本。⑧刊本と写本。⑨写本の読解方法。⑩写本の所在。⑪写本の探索方法。⑫写本に関する書誌学的知識。⑬文献学。⑭文献学の確立。⑮発表と討論
授業の方法	受講生の研究してきたレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また重要資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	研究テーマが定まり次第テキストや先行研究論文の集成の指導を行う。
参考文献	研究テーマ決定に従って参考文献を探索する。参考文献の探し方についても指導を行う。

履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25010
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業の目的・概要	学位論文の執筆に際してのテーマの設定、研究に必要な資料や参考文献の収集、適切な研究方法などを指導する。
到達目標	学位論文に関する毎回の報告と指導を踏まえ、関連する学術論文の作成方法を学んだ上で、学位論文の完成を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説（論文とは何か：目的、方法等） 2 論文のルール 3 学位論文のテーマ設定をめぐって 4-15 報告と議論、および指導 冬学期 1 進行状況の報告と展望 2-15 報告と議論、および指導
授業の方法	学生が用意してきたレポートや研究の部分的な成果をもとに、コメントと質疑応答、ならびに討論を交えながら授業を進める。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）により、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	毎回の授業の予習には5時間、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	必要に応じて授業の中で指示する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	論文の完成に向けた地道な取り組みが期待される。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25011
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	木曜日 5時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に向けて、研究テーマ、問題の設定、論文の構成、研究の方法、必要な文献、原典の翻訳・解釈などにわたって、個別に指導する。
到達目標	合理的な研究計画に従って、研究の方法を習得しながら、学位論文の完成を目指す。
授業計画	研究テーマによって、個別に協議検討した上で決定する。
授業の方法	論文執筆者が準備段階ごとに提示する研究成果（問題意識も含めて）をもとに、コメント、討論、または助言などを行う。
教員から学生へのフィードバック方法	個別に対面で、あるいはメールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること。
履修上の注意	合理的な研究計画の立案と、研究遂行に向けた地道な取り組みが望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25012
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	水曜日 5時限目 金曜日 5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業の目的・概要	この時間の主な目的は、学位論の計画や執筆などを指導し、積極的にサポートを行うことである。論文の進捗状況を確認しながら、執筆過程に於いて直面する諸問題（論文構成や研究方法、資料調査、難解箇所の詳細な読解など）にあたり、学生と共に取り組み、問題解決を目指している。
到達目標	論文研究や執筆は、各学期に確実に進むこと。
授業計画	各学生と相談し、個別に決めること。
授業の方法	学生による報告のほか、質疑応答や原文解説、論文構成や研究方法等に関する説明を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	原則として、口頭で指導を行う。 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。
テキスト	論文のテーマ等によって、個別に決めること。
参考文献	論文のテーマ等によって、個別に決めること。
履修上の注意	● 修士論文は、研究分野に関する総合的な知識を把握し、その中で特定の側面・文献に焦点を当て、問題所在や先行研究を網羅し、原典をよく理解するほか、新たな結論を導くことを目指している。 ● 博士論文は、上記の条件を満たした上で、更に緻密な文献学的・歴史学的方法を用いて、選んだテーマや文献に関する新しい発見・貢献を成し遂げることを目指している。 ● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25013
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	木曜日 4時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業の目的・概要	学位論文の作成に必要な方法を習得することを目的とする。テーマの設定、研究史の把握、必要な文献の選択、文献解読の方法、写本読解の方法、批判テキストの分析方法などを指導する。
到達目標	仏教研究に必要な基礎能力を身につけ、学位論文を完成することを目標とする。
授業計画	受講生の学問的関心と研究テーマにそって、個別に相談し、決定する。
授業の方法	受講生の関心と研究テーマについて議論し、その研究テーマにふさわしい文献を選択する。研究テーマと文献に関する研究史を調査し、論文の内容と構成を決定する。論文の進捗段階に合わせて、論文原稿を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、論文原稿等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（論文指導への積極参加）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	論文の構想をまとめ、文献資料を調査し、論文原稿を準備すること。授業でのコメントや議論を参考に論文原稿を訂正すること。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要なテキストを用いる。
参考文献	論文執筆者の研究テーマに応じて、必要な文献を用いる。
履修上の注意	積極的な問題意識を持って、論文の完成に向けて地道に取り組むことが望まれます。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25014
科目名・単位数	論文指導 4単位
科目ナンバリング	2-12 (3-5)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業の目的・概要	学位論文執筆のためのテーマの選択から、執筆完成に至るまでの全過程における事柄について指導し、教授する。論文テーマの選定、先行業績の調査、文献資料の渉猟と蒐集の方法、選定資料の読み込み、執筆内容の吟味などについて、受講者のそれぞれのテーマ、それぞれの段階に応じて指示し、論文の完成を目指す。
到達目標	受講者それぞれの修士論文、博士論文の完成を目指す。
授業計画	第1～5講 テーマの選択・設定に関する指導 第6～9講 テーマに関わる先行業績文献資料の読み込み 第10講以降 執筆内容の吟味と指導
授業の方法	授業日、授業時間はあらかじめ設定されているものの、受講者との話し合いにより、双方の都合で決定する。そのためあらかじめの打ち合わせが必要である。また、コロナウイルス感染状況に応じて、対面式授業からオンライン方式に切り替えることもありうる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（出席率を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。 予習、復習に4時間をかけること
テキスト	論文執筆者が選択し、提示する。
参考文献	教場でテキストの内容ごとにその都度指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25015
科目名・単位数	仏教文献学方法論 4単位
科目ナンバリング	3-4 (1-2)
時限	火曜日 4時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	日本古写経『毘羅三昧経』の研究
授業の目的・概要	『毘羅三昧経』二巻は釈道安の『綜理衆経目錄』（復元本）に依れば中国仏教初期に編集撰述された疑経の一つである。釈道安は 26 部 30 巻の疑経を挙げたが、それらは散逸してしまい、僅かに引用文から最初期の疑経の姿を探るだけであつたが、筆者は七寺一切経の中から本書を見つけ『七寺古逸經典叢書』第 1 巻に収録した。成立は 3～4 世紀であり、七寺一切経にのみ残存する世界の孤本とも称すべき貴重な典籍である。 本書発見の経緯を述べるとともに七寺一切経の全体構成について理解しておかなければならない。それは「不入蔵目錄」という分類である。これは『開元録』から始まったが、そこにはタイトルがなく、『開元録』を基本的に踏襲した『貞元録』に見られる用語である。 しかし、『開元録』は何ゆえにそのような入蔵しない經典類の目錄を作成したのであろうか。これは『開元録』の基本的性格を測る重要な視点である。本講ではその真相解明を探り、『毘羅三昧経』が日本に伝来した背景を明らかにしていく。
到達目標	漢訳經典から賢聖集伝まで、さらに別生経や疑経なども含めて『開元録』『貞元録』等の経録に見える記事を正確に把握し得る能力を身に付けていくことが肝要である。 また、『毘羅三昧経』が先行する漢訳經典の何処をどのように採用し、改変していったか、それらを仏教学の見地から見通す視点の醸成が必要である。
授業計画	夏学期①概説 1：経録の歴史。②概説 2：初期の経録と釈道安。③七寺一切経と『貞元録』。④同 2。⑤『開元録』考究 1。⑥同 2。⑦同 3。⑧同 4。⑨同 5。⑩不入蔵目錄。⑪同 2。⑫同 3。⑬同 4。⑭同 5。⑮同 6。 冬学期①夏学期の続き。①『毘羅三昧経』読解。②同 2。③同 3。④同 4。⑤同 5。⑥同 6。⑦同 7。⑧同 8。⑨同 9。⑩同 10。⑪同 11。⑫まとめ 1。⑬まとめ 2。⑭まとめ 3。⑮まとめ 4。
授業の方法	テキストを事前に予習し、訳注を行い発表する。その準備を異体字辞典等各種辞典から引き、さらに日本古写経の諸本の影印を日本古写経データベースからプリントし比較検討する。本書の書写者を特定する。授業ではそれらの解説を振り当てられた担当者が発表していく形式となる。なお、スマホ・iPad・パソコンの使用は禁じる。

教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所を発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	『毘羅三昧経』（日本古写経データベースからプリントアウト）。
参考文献	『七寺古逸経典研究叢書』第1巻。大東出版社。1994年。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25016
科目名・単位数	仏教文化学方法論 4単位
科目ナンバリング	4-4 (1-2)
時限	火曜日 2時限目
担当教員氏名	宮本 久義 講師 (元東洋大学 教授)
授業題目	道をめぐるインド文化論
授業の目的・概要	人はなぜ移動するのかという問題は、人間の歴史的・文化的営為を読み解くための重要なポイントであり、道はそのキーワードのひとつであると考えられる。道は、民族移動の道、交易の道、巡礼や求法の道、文化伝播の道、民族独立の道などさまざまな要素を持っている。いろいろな地図を見ながら、そこにあらわれるさまざまな歴史と文化の問題を一緒に考えていきたい。 釈尊ブッダの求道と伝道の道や、法顕・玄奘・義浄など求法僧の辿った道を手始めに、スリランカや東南アジア、中国、日本への仏教の伝播などを概説する。また、仏教の八大霊場と比較する意味で、ヒンドゥー教の聖地の分類やその特徴を考察しつつ、仏教とヒンドゥー教の複合的聖地であるカイラーサやヴァーラーナシーなどの現在の聖地信仰の実態にも触れる。さらに、イブン・バットゥータの『三大陸周遊記』やマルコ・ポーロの『東方見聞録』、鄭和の西洋下りの記録『瀛涯勝覧』などを資料として、イスラーム世界やキリスト教世界、中国世界とインドの繋がりにも触れる予定である。
到達目標	インドを中心とする南アジアを対象として道の文化史を考えると、そこにはその地域的特殊性ととも、全世界に共通する普遍性も浮かび上がってくるであろう。それらを理解し、地理・歴史と文化・思想が緊密に結びつく様相を分析・考察できるようになることを目標としたい。
授業計画	夏学期 第1回：南アジアのトポロジー 第2回：先史以来の道の動態・古代インドの道 第3回：ブッダの求道と伝道の道 第4回：仏教の八大霊場 第5回：『法顕伝』とその関連資料 第6回：法顕の求法の旅の目的とたどった道 第7回：『南海寄帰内法伝』とその関連資料 第8回：義浄の求法の旅の目的とたどった道 第9回：『大唐西域記』とその関連資料 第10回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(1) 第11回：『大唐西域記』に見る玄奘のたどった道(2) 第12回：『大唐西域記』における地名同定の問題点 第13回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(1) 第14回：『瀛涯勝覧』に見る鄭和の西洋下り(2) 第15回：日本における聖地巡礼 冬学期 第1回：ヒンドゥー教の宗教思想

	第2回：ヒンドゥー教の聖地 第3回：ブラーナ聖典における「マーハートミヤ」 第4回：ブッダガヤーとガヤー 第5回：ヴァーラーナシーとサルナート(1) 第6回：ヴァーラーナシーとサルナート(2) 第7回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(1) 第8回：カイラーサ山とマーナサローヴァラ湖(2) 第9回：中世インドを旅した人々 第10回：イスラームの来た道 第11回：イブン・バトゥータの『三大陸周遊記』 第12回：マルコ・ポーロの『東方見聞録』 第13回：キリスト教の来た道 第14回：フランシスコ・ザビエルの伝道 第15回：総括
授業の方法	こちらで用意した配布資料をもとに講義を進めていく。漢文やサンスクリットの原典を使用するときには、できるだけわかりやすく解説する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。また必要があれば、メールでコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習を合わせて少なくとも4時間程度の時間をかけてほしい。
テキスト	教場にて（オンライン授業の場合は添付ファイルで）資料を配布する。
参考文献	小西正捷・宮本久義編『インド・道の文化誌』春秋社、1995年 水谷真成訳『大唐西域記』平凡社、1972年 義浄撰、宮林昭彦・加藤栄司訳『南海寄帰内法伝』法蔵館、2004年 長沢和俊訳註『法顕伝・宋雲行紀』平凡社、1975年 馬歓著、小川博訳註『瀛涯勝覧』吉川弘文館、1969年 その他、講義中に適宜教示する。
履修上の注意	講義中は常にインドの地図を参照し、インドの地理と文化が徹底的に頭に入るように努力していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25017
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7A1-8 (1-3)
時限	月曜日 3時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	梵漢比較研究—『維摩経』を中心に— (Sanskrit-Chinese Comparative Philology: Focusing on the <i>Vimalakīrtinirdeśa</i>)
授業の目的・概要	● 『維摩経』「弟子品・菩薩品」を例にサンスクリット原文 (Potala MS) 及び現存する三漢訳 (支謙訳、羅什訳、玄奘訳) を緻密に検討読解し、比較することによって、それぞれのテクスにみられる相違がインド写本変遷の歴史を物語っているか、或いは漢訳者の訳風や特徴 (場合によって誤訳) を反映しているかについて検討していきたい。 ● 必要に応じて、蔵訳のほか、現代語訳 (和文、英文、仏文等) をも参照する予定である。 ● 思想史的には、『維摩経』の独自の空説や菩薩理念などを考察するのみならず、「弟子品・菩薩品」にみられる初期佛教伝来の教義や修行等の批判・再解釈をも考察していきたい。
到達目標	● 梵語及び漢訳を正確に読解し、それぞれの言語の知識を深めること。 ● 文献を比較することによって、成立史や伝承史を探ること。 ● 大乘佛教に於ける『維摩経』の位置と歴史を理解すること。 ● 『維摩経』の主要教義、とりわけ、居士の立場から説示される「空」や「菩薩」等を理解すること。 ● 梵・漢文献の正確な校訂や訳注方法を身につけること。
授業計画	夏学期 (1) 授業の紹介・基礎知識 (2)-(4) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 82-3 (5)-(8) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 84-5 (9)-(12) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 86-7 (13)-(15) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 88-9 冬学期 (1)-(5) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 90-91 (6)-(9) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 92-93 (8)-(11) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 94-95 (12)-(14) 《梵蔵漢対照『維摩経』》 pp. 96-7 (15) 年末テスト
授業の方法	● 夏学期の(1)は講義形式で行い、それ以外の授業は、学生参加型のセミナーとなっている。セミナーでは、参加者全員は、読む予定の箇所を予習し、課せられた宿題を準備する必要がある。

	● 冬学期の最後の授業中にて、期末テストを行う予定である。範囲や方法等に関する詳細は、授業中に説明する。
教員から学生へのフィードバック方法	● 原則として、口頭で指導を行う。 ● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（総点の70%）及び期末テスト（総点の30%）にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。
テキスト	Study Group on Buddhist Sanskrit Literature (Taisho University) ed. <i>Vimalakīrtinirdeśa, Transliterated Sanskrit Text Collated with Tibetan and Chinese translations</i> = 《梵藏漢対照『維摩經』》
参考文献	● 植木雅俊訳『梵藏漢対照・現代語訳 維摩經』（岩波書店、2011年） ● 植木雅俊『梵文『維摩經』翻訳語彙典』（法蔵館、2019年） ● 高橋尚夫『維摩經ノート』（ノンブル社、2017年） ● Luis Gomez and Paul Harrison transl. <i>The Teaching of Vimalakīrti</i> (Berkeley: Mangalam Press, 2022) ● Étienne Lamotte transl. <i>The Teaching of Vimalakīrti (Vimalakīrtinirdeśa)</i> (Rendered into English by Sara Boin) (Oxford: Pali Text Society, 1994) ● Robert A.F. Thurman transl. <i>The Holy Teaching of Vimalakīrti: A Mahāyāna Scripture</i> (Delhi: Motilal Banarsidass Publishers, 1991 [1976])
履修上の注意	● 授業は、原則として日本語で行われるが、必要に応じて英語等でも対応する。 ● 読解力としては、日本語（中級以上）のほか、漢文〔文言〕（初級以上）、サンスクリット語（初級以上）、英語（初級以上）等が望ましい。 ● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25018
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7A2-8 (1-3)
時限	月曜日 5時限目
担当教員氏名	デレアヌ フロリン 教授
授業題目	瑜伽行派の研究—『大乘莊嚴經論』(<i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i>)を中心に— (Yogācāra Buddhism: Focusing on the <i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i>)
授業の目的・概要	今年度は、瑜伽行派の依経となっている『大乘莊嚴經論』に焦点を当て、文献成立や思想史、主な教義などを検討していきたい。夏学期は、瑜伽行派に於ける『大乘莊嚴經論』の位置、特に『瑜伽師地論』「菩薩地」との関係を検討し、その相当箇所や先行問題を考察する。冬学期は、<i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i>, Chapter V: <i>Pratipattyadhikāra</i> 並びにその漢訳『大乘莊嚴經論』「二利品」を読解し、訳注を試みる。
到達目標	● 佛教、とりわけ瑜伽行派の文献と思想に関する知識を深めること。 ● 厳密な文献分析を通して、原典の成立史や思想史的展開を学ぶこと。 ● サンスクリット原文の校訂並びに蔵訳や漢訳との比較、更に現代語訳の方法を身につける。
授業計画	夏学期 (1) 授業の紹介・基礎知識 (2) 『大乘莊嚴經論』の文献学的・書誌学的紹介 (3) 『大乘莊嚴經論』の構成と思想 (4)-(7) 瑜伽行派に於ける『大乘莊嚴經論』の位置 (8)-(12) 『大乘莊嚴經論』と『瑜伽師地論』「菩薩地」との関係 (13)-(15) 『大乘莊嚴經論』と『瑜伽師地論』「菩薩地」と先行問題 冬学期 (1)-(3) <i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i>, <i>Pratipattyadhikāra</i> (Lévi ed. p. 19) の梵文解読と漢訳『大乘莊嚴經論』「二利品」との比較 (4)-(8) <i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i>, <i>Pratipattyadhikāra</i> (Lévi ed. p. 20) の梵文解読と漢訳『大乘莊嚴經論』「二利品」との比較 (9)-(12) <i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i> <i>Pratipattyadhikāra</i> (Lévi ed. p. 21) の梵文解読と漢訳『大乘莊嚴經論』「二利品」との比較 (13)-(14) <i>Mahāyānasūtrālaṃkāra</i> <i>Pratipattyadhikāra</i> (Lévi ed. p. 22) の梵文解読と漢訳『大乘莊嚴經論』「二利品」との比較 (15) 年末テスト
授業の方法	● 夏学期は、講義及びセミナーという混交型の授業を行う予定である。冬学期は、セミナー形式のみとなり、それにあたり、参加者全員は、読む予定の箇所を予習し、課せられた宿題を準備する必要がある。

	● 冬学期の最後の授業中にて、期末テストを行う予定である。範囲や方法等に関する詳細は、授業中に説明する。
教員から学生へのフィードバック方法	● 原則として、口頭で指導を行う。 ● 必要に応じてメールやオンラインで指導を行うことがある
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（総点の70%）及び期末テスト（総点の30%）にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習：2時間 復習：2時間 授業の内容について事前に知らせ、これを予習し、授業後はそれを復習し、得た知識を纏め直すこと。
テキスト	● Sylvain Lévi ed. [1907] 1983. <i>Mahāyāna-sūtrālaṃkāra</i>. Tome I: Texte. Kyoto: Rinsen Book Co. ● 小谷信千代『大乘莊嚴經論の研究』（文栄堂、1984年） ● 宇井伯壽『大乘莊嚴經論研究』（岩波書店、1961年）
参考文献	● Erich Frauwallner. 2010. <i>The Philosophie of Buddhism</i>. Translated by Gelong Lodrö Sangpo. Delhi: Motilal Banarsidass Publishers. ● Sylvain Lévi transl. [1911] 1983. <i>Mahāyāna-sūtrālaṃkāra</i>. Tome II: Traduction, Introduction, Index. ● L. Jamspal et al. transl. 2004. <i>The Universal Vehicle Discourse Literature (Mahāyānasūtrālaṃkāra)</i>. New York: Columbia Univ. Press. ● Ayako Nakamura. 2016. <i>Das Wesen des Buddha-Erwachens in der frühen Yogācāra-Schule</i>. Hamburg: Universität Hamburg.
履修上の注意	● 授業は、原則として日本語で行われるが、必要に応じて英語等でも対応する。 ● 読解力としては、日本語（中級以上）のほか、サンスクリット語（中級級以上）、漢文〔文言〕（初級以上）、英語（初級以上）等が望ましい。 ● 止むを得ない場合は、オンライン授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	2 5 0 1 9
科目名・単位数	南・東南アジア仏教文献学演習 2 単位
科目ナンバリング	7A2-8 (1-3)
時限	月曜日 4 時限目
担当教員氏名	Alexis Sanderson 客員教授 (オックスフォード大学名誉教授)
授業題目	Śaivism and the Rise of Tantric Buddhism
授業の目的・概要	This series of seminars will outline in the first four the history of Śaivism in its principal forms and then, from this basis, will present in the remaining eleven detailed evidence of how Śaiva beliefs and practices exerted an ever increasing influence on Buddhism through the emergence of ever more radical forms of Buddhist Tantric practice. The seminars will include the reading of passages from primary sources in Sanskrit. Handouts that will contain these passages will be provided in advance of each seminar. The last six seminars will be devoted to a close reading of passages of the Yoginītantra Herukābhīdhāna, also known as the Cakrasaṃvara or Laghva-abhīdhāna, which exhibits the zenith of this influence, showing direct dependence on Śaiva sources. We will read the Śaiva source, the Buddhist parallel, and some of the efforts of Buddhist commentators to naturalize this material.
到達目標	The seminars will aim to demonstrate the benefit of studying Indian religious traditions in relation to those around them by combining wide reading with close critical examination of primary sources, that is to say, the manuscript evidence that has reached the present. They will also, it is hoped, convey to students the need to strive constantly to refine their knowledge of the primary languages of their sources, in this case Sanskrit, and to study the textual evidence together with other sources of knowledge, notably inscriptions and material data. The seminars will also aim to open up questions concerning the broader social and political contexts of the development of Tantric Buddhism and will attempt to explain the ebb and flow of Buddhist Tantric text-production in relation to the ebb and flow of state power exercised through state-founded and state-funded monastic institutions.
授業計画	1. Introduction to Śaivism. After a brief review of the earliest evidence of Śaivism this seminar will provide an overview of the evolution and interrelations of its main traditions (Atimārga I–III, the Saiddhāntika and non-Saiddhāntika Mantramārga, and the Āmnāyas of the Kulamārga) both with each other and with the brahmanical mainstream. 2. Atimārga I: the Pāñcārthika Pāśupatas. 3. Atimārga II: the Lākulas/Kālamukhas; and Atimārga III: the Kāpālikas. 4. The Saiddhāntika Mantramārga, the Non-Saiddhāntika Mantramārga, and the Kulamārga. 5. The Śaiva Vāmasrotas and Buddhist reflexes: <i>Mañjuśrīmūlakalpa</i>, <i>Nayasūtra</i>. 6. The Caryātantra <i>Mahāvairocanaḥhisambodhi</i> and the Yogatantra <i>Sarvathāgatatattvasaṃgraha</i>. 7. The <i>Guhyasamāja</i> and the <i>Guhyasiddhi</i> of Padmavajra. 8. The proto-Yoginītantra <i>Sarvabuddhasamāyogaḍākinījālaśaṃvara</i>.

	9. The Śākta-Śaiva models of the Buddhist Yoginītantras. 10–15. A reading of the chapters on initiation in the Buddhist Yoginī-tantra <i>Herukābhīdhāna</i>, its Śaiva parallel in the <i>Yoginīsaṃcāra-prakarāṇa</i> of the <i>Jayadrathayāmala</i>, and selections from the commentaries on the <i>Herukābhīdhāna</i> surviving in Sanskrit.
授業の方法	Critical reading of primary sources and contextual analysis.
教員から学生へのフィードバック方法	Provide individual feedback face-to-face or via email.
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	Evaluation by class participation for each semester.
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	(a) Preparation: 120 min (b) Review: 120 min
テキスト	My draft editions of the <i>Herukābhīdhāna</i> and the <i>Yoginīsaṃcāraprakarāṇa</i> (to be provided in the Handouts from week to week)
参考文献	Hara, Minoru. 1958 (tr) Chapter of the Sarvadarśanasamgraha of Sāyaṇa-Mādhava entitled Nakulīśa-Pāśupata Darśana, <i>Indo-Iranian Journal</i> 2, pp. pp. 8–32. ———. 2002. <i>Pāśupata Studies</i>. Ed. Jun Takashima. Vienna. Lorenzen, David. 1991. <i>The Kāpālikas and Kālāmukhas. Two Lost Śaivite Sects</i>. New Delhi: Thomson. Second, revised edition. First edition 1972. <i>The Nīśvāsātattvasaṃhitā. The Earliest Surviving Śaiva Tantra. Volume 1. A Critical Edition & Annotated Translation of the Mūlasūtra, Uttarasūtra & Nayasūtra</i>. Ed. Dominic Goodall in collaboration with Alexis Sanderson & Harunaga Isaacson with contributions of Nirajan Kafle, Diwakar Acarya & others (Collection Indologie 128, Early Tantra Series 1, Institut français d'Indologie / École française d'Extrême-Orient / Asien-Afrika-Institut, Universität Hamburg), 2015. Study the Prolegomena (pp. 19–84). Sanderson, Alexis. 1988. Śaivism and the Tantric Traditions. In <i>The World's Religions</i>, ed. by S. Sutherland et al. (London: Routledge, 1988), pp. 660–704. Reprint in <i>The World's Religions. The Religions of Asia</i>, ed. F. Hardy (London: Routledge, 1990), pp. 128–172. ———. 1995. Vajrayāna: Origin and Function. In: <i>Buddhism into the Year 2000. International Conference Proceedings</i>. Bangkok and Los Angeles: Dhammakāya Foundation, pp. 89–102. Chinese translation prepared by Linghui Zhang and revised by Shanshan Jia, and Mei Yang in <i>He wei mi jiao : guan yu mi jiao de ding yi, xiu xi, fu hao he li shi de quan shi yu zheng lun</i> (What is Tantrism: the interpretation and controversy of the definition, practice, semiology, and historiography of Tantrism) ed. by Shen Weirong ([Beijing]: Zhongguo Zang xue chu ban she, 2013), pp. 51–70.

	———. 2001. History Through Textual Criticism in the Study of Śaivism, the Pāñcarātra and the Buddhist Yoginītantras. In: <i>Les sources et le temps. Sources and Time. A Colloquium</i>, Pondicherry, 11–13 January 1999, ed. by François Grimal, 2001, pp. 1–47. Publications du département d’Indologie 91. Pondicherry: IFP/EFEO. See especially p. 41–47 on text-flow from the texts of the Śākta Śaiva Vidyapīṭha to the scriptures of the Śaṃvara (bDe mchog) division of the Buddhist Yoginītantras. ———. 2006. The Lākulas: New Evidence of a System Intermediate Between Pāñcārthika Pāśupatism and Āgamic Śaivism. <i>Indian Philo-sophical Annual</i> 26 (2003–2005), pp. 143–217. ———. 2009. The Śaiva Age: An Explanation of the Rise and Dominance of Śaivism during the Early Medieval Period. In <i>Genesis and Development of Tantrism</i>, ed. by Shingo Einoo (Institute of Oriental Culture Special Series Issue/Volume: 23, Tokyo: Institute of Oriental Culture, University of Tokyo), pp. 41–349. ———. 2013. The Impact of Inscriptions on the Interpretation of Early Śaiva Literature. <i>Indo-Iranian Journal</i> 56, pp. 211–244. ———. 2014. The Śaiva Literature. <i>Journal of Indological Studies</i> (Kyoto), Nos. 24 & 25 (2012–2013), pp. 1–113. ———. 2024. The Role of Śaivism in the Tantric Transformation of Buddhism. 1. Tantric Traditions in the Time of Dharmakīrti and Śākyabuddhi. <i>Mikkyōgaku Kenkyū</i> 56, pp.1–34. Hatley, Shaman. 2016. Converting the Ḍākinī: Goddess Cults and Tantras of the Yoginīs between Buddhism and Śaivism. In <i>Tantric Traditions in Transmission and Translation</i>, ed. by David Gray and Ryan Richard Overbey (Oxford: Oxford University Press), pp. 37–84.
履修上の注意	Students are advised to prepare by studying the Handouts that will be distributed in advance of each seminar.
連絡方法	Verbally after each seminar or by e-mail.

科目番号	25020
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7B1-8 (1-3)
時限	金曜日 2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	インド大乘仏教思想史研究
授業の目的・概要	周知のように、非有非無や不苦不楽の中道説は、仏教思想の基本的な立場を表明する。＜縁起＞を根拠にしたこの中道説は、2～3世紀のナーガールジュナ（龍樹）によってその意義が再認識され、『中論』を起点とする「中観」思想をもたらすことになる。4～6世紀には大乘仏教を代表する部派となった瑜伽行・唯識学派と、6世紀以降のインド仏教史に多大な影響力をもった中観学派の両学派が、一面では、中道の本家争いともいえる活発な論議を展開した。この授業では、昨年度に引きつづき、瑜伽行派の思想を基礎づけたヴァスバンドゥ（世親 400-480 頃）作『唯識三十頌』およびスティラマティ（安慧 510-570 頃）の注釈にみる唯識説とその関連思想を、テキストを精読しながら講義する。
到達目標	インド大乘仏教思想史を適確に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2 ＜中道＞理解をめぐる瑜伽行・唯識派と中観派 3-15 『唯識三十頌』 <i>Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> 講読 冬学期 1-15 『唯識三十頌』 <i>Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> 講読
授業の方法	講義と関連テキストの講読を中心とし、必要に応じて関連資料（写本コピー等）を配布して利用する。積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）により、通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	毎回の予習には3時間以上、復習には1時間の時間をかけること。
テキスト	H. Buescher, <i>Sthiramati's Triṃśikāvijñaptibhāṣya</i> . ÖSW 768, 2007. その他は、随時プリント配布する。

参考文献	梶山雄一他「唯識三十論」『世親論集』（大乘仏典 15）中央公論社,1976. 桂紹隆他編『唯識と瑜伽行』（シリーズ大乘仏教 7）春秋社, 2012. 斎藤明他編『空と中観』（シリーズ大乘仏教 6）春秋社, 2012. その他は、授業の中で随時紹介する。
履修上の注意	丹念な予習・復習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25021
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7B1-8 (1-3)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	原始仏教・初期仏教における倫理観
授業の目的・概要	原始仏教あるいは初期仏教と称される仏教の思想を概観し、仏教の教理の基礎を理解する。
到達目標	仏典の言語の性格を把握し、文献分析の基礎的方法を理解し、的確な内容分析能力を習得する。
授業計画	夏学期 第1回 概説 第2回 仏典の言語 第3-6回 生死の克服 第7-10回 信の様相 第11-15回 原始仏教の倫理的性質 冬学期 第1回 概説 第2-6回 倫理成立の基礎 第7-11回 社会倫理の基本思想 第12-15回 倫理的実践の規範
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、質問や疑問を出し合って、テーマについての議論を深める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。 予習、復習に4時間をかけること
テキスト	授業の中で紹介する。
参考文献	授業の中で紹介する。
履修上の注意	授業に積極的に参加し、十分な学術知識の習得に努めることが望まれます。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25022
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7B2-8 (1-3)
時限	水曜日 2時限目
担当教員氏名	斉藤 明 特任教授
授業題目	インド仏教思想関連文献講読
授業の目的・概要	インド仏教思想史上の主要なテキストを講読する。今年度は、昨年度に引き続き、中観学派を確立したパーヴィヴェーカの主著『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> の中の第4「声聞の真実確定」[説]への〔批判的〕入門」章を、注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> とともに講読する。同章は著者が展開する大乘仏説論、および注釈において詳説される部派分裂史に関する資料としても貴重である。同章の内容と背景を分析・解説しながら、丹念に読み進める。今年度は Eckel 校訂本の p. 337 以降の、著者による大乘仏説論を中心とする箇所を読む。サンスクリット語文法に関する基礎知識が望まれる。
到達目標	サンスクリット語で著された仏教論書の読解力を身につけるとともに、適確な内容理解を目指す。
授業計画	夏学期 1 導入と解説 2-15『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> および注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> 第4章講読 冬学期 1 導入と解説 2-14『中観心論』 <i>Madhyamakahrdayakārikā</i> および注釈『論理炎論』 <i>Tarkajvālā</i> 第4章講読 15 総括
授業の方法	演習形式を基本とし、それぞれの文献の内容および研究史に関する解説を交える。授業では、テキストの読解ならびに内容に関する積極的な質疑応答とディスカッションを期待している。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭で質疑応答を行うとともに、コメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）により、通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には4時間以上、復習には1時間の時間をかけること。

テキスト	M. D. Eckel, <i>Bhāviveka and His Buddhist Opponents</i> , Harvard Oriental Series 70, 2008. その他は、随時プリント配布する。
参考文献	斎藤明「中観思想の成立と展開」『空と中観』（シリーズ大乘仏教6）春秋社, 2012, pp. 3-41. その他は、授業の中で随時紹介する。.
履修上の注意	地道な予習と、コンスタントな授業出席を望んでいる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25023
科目名・単位数	内陸アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7B2-8 (1-3)
時限	木曜日 2時限目
担当教員氏名	幅田 裕美 教授
授業題目	Dhammapada 文献講読
授業の目的・概要	仏教の古い偈文集 Dhammapada とその平行文献を比較対照して読み、文献の伝承に用いられた諸言語と、伝承の歴史を理解することを目的とする。
到達目標	パーリ語、ガンダーラ語、プラークリットおよび仏教サンスクリット語の対応関係を理解し、仏教用語の分析力、読解力を身につける。
授業計画	夏学期 第1回 Dhammapada 文献概観 第2回 仏典の言語概説 第3-15回 パーリ語、ガンダーラ語、プラークリット、 仏教サンスクリット語、漢訳を比較対照して講読 冬学期 第1-15回 パーリ語、ガンダーラ語、プラークリット、 仏教サンスクリット語、漢訳を比較対照して講読
授業の方法	テキストを講読し、漢訳との対応を分析し、問題点を議論する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。 予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	Dhammapada ed. O. von Hinüber and K. R. Norman. Oxford 1994. Gāndhārī Dharmapada ed. John Brough. London 1962. Gāndhārī Dharmapada (A New Version of the Gāndhārī Dharmapada and a Collection of Previous-Birth Stories. British Library Kharoṣṭhī Fragments 16 + 25) ed. Timothy Lenz. Seattle 2003. Patna Dharmapada. ed. Margaret Cone. JPTS 13. 1989, pp. 101-217. Udānavarga ed. Franz Bernhard. Göttingen, Band I, 1965; Band II, 1968.
参考文献	水野弘元『法句経の研究』東京 1981. その他は授業の中で紹介する。

履修上の注意	丹念な予習と復習が望めます。 サンスクリット語の基礎知識が必要です。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25024
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	水曜日 2時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 特任教授
授業題目	空海に見る密教思想と天台教学
授業の目的・概要	空海は『十住心論』（『秘密曼荼羅十住心論』）において、自身の教判論を確立した。空海が真言宗を頂点として第十住心に配した上で、天台宗を二段階下の第八住心としたことは、教判論争として継続されることになった。本授業では、序文と第八住心・第十住心の講読により、密教の基本的知識を身に付けることを目指し、同時に空海による天台教学の理解を検討する。その他、受講者の興味により、関連事項を扱う予定である。
到達目標	空海の根本思想を理解することに併せ、空海と天台教学との関わりを知る。仏教漢文に習熟する。
授業計画	該当箇所 の訓読、及び口語訳を行う。 夏学期 第1回 中国・日本密教概説 第2回 『十住心論』概説 第3回～第15回 『十住心論』講読 冬学期 第1回～第14回 『十住心論』講読 第15回 総括
授業の方法	発表形式とするので、担当者は各自の興味や習熟度に従って、必要と思われる補助的資料を準備する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習する。予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	大正新脩大蔵経 77 所収『秘密曼荼羅十住心論』
参考文献	『弘法大師空海全集』1（筑摩書房） 勝又俊教『弘法大師著作全集』1（山喜房佛書林） その他については、教場で指示する。
履修上の注意	原典の忠実な読みを心掛けてください。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25025
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	火曜日 5時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	金剛寺一切経中の北本『涅槃経』巻十の研究
授業の目的・概要	金剛寺一切経には近年新たに確認された安世高訳『十二門経』や異本『安般守意経』などがあり異彩を放っている。また『観無量寿経』は長寛三年(1165)写であるが、その訓点・科文・テキスト本文等から比叡山の黒谷に存した経本であることが知られる。かつて黒谷で研鑽を積んでいた源信の著『往生要集』に引用された『観経』本文と金剛寺の長寛三年写本とが見事に一致する。 このように比叡山から善本がもたらされたことは興味深いが、さらに令和6年3月に北本『涅槃経』巻十が極めて興味深い内容を含んでいることが発見された。訓点は園城寺(三井寺)の西墓点が付され、カナ訓点も平安中期の字姿を示している。しかも本書の巻末に朱字で「僧寂照持経也」という元の所持者名まで書かれている。寂照という僧名は記録上幾人か散見するが、もし平安中期の寂照となればそれは大江定基(962?~1034)となり、当時の著名な貴族かつ学僧であった。彼は長保5年(1003)に入宋したが、宋の皇帝真宗(在位997~1022)から円通大師という大師号が与えられた。それは寂照の書が四世紀の王羲之、王献之の書風を受け継いでいると見られたからである。 果たしてどこまでこれらの文化的事績を追えることができるか、文献を丁寧に読み解いていくなかで本書の価値を見いだしたいと考えている。
到達目標	園城寺(寺門)の学風が北本『涅槃経』巻十に現れているかを明らかにすることが第一目標である。ついで歴史上著名な寂照法師の持経本であったかどうか書道史からも探索し和様の書を見極めていく。
授業計画	夏学期：①天野山金剛寺の歴史。②金剛寺一切経の概要1。③同2。④同3。⑤同4。⑥同5。⑦園城寺(三井寺、寺門)の歴史。⑧同2。⑨同3。⑩訓点、特に西墓点について。⑪各自分担を決定し輪読を行う。輪読1。⑫輪読2。⑬輪読3。⑭輪読4。⑮夏学期総括。 冬学期：①輪読5。②輪読6。③輪読7。④輪読8。⑤輪読9。⑥輪読10。⑦輪読11。⑧輪読12。⑨輪読13。⑩本書の位置について考察1。⑪同考察2。⑫同考察3。⑬同考察4。⑭同考察5。⑮まとめ。
授業の方法	受講生が担当した翻刻・訓読・訳注のレポートについて適宜問題点を指摘し、レヴェルアップを図る。また関連資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。

教員から学生へのフィードバック方法	受講生の担当箇所の発表後に整理した翻刻・訓読・訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって翻刻・訓読・訳注が合格点に達成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	金剛寺一切経北本『涅槃経』巻十。 各自図書館に設置されている日本古写経データベースからカラーでプリントアウトしてくる。
参考文献	築島裕『平安時代訓点本論考（ワコト点図仮名字体表）』汲古書院。昭和61年。 『金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究』（科研基盤研究(A)15202002. 2003年～2006年）報告書。 『天野山金剛寺善本叢刊』3巻（勉誠出版。平成30年）。 『園城寺の研究』天台宗寺門派御遠忌事務局編。昭和6年。 国訳大蔵経および国訳一切経の訓読文も参照すること。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25026
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	金曜日 3時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	漢文大蔵経史研究—10～14世紀
授業の目的・概要	東アジア仏教にとって、漢文大蔵経を中心とする漢文仏教典籍はその思想文化の源流であり、また常に思想・信仰上の拠りどころ、基盤であり続けてきた。この授業では、漢文大蔵経の歴史を俯瞰した上で、特に10から14世紀にかけて現れた刊本大蔵経を中心に、それらの成立・変遷や、周辺諸国への伝播と後世への影響などについて、体系的に解説する。
到達目標	10～14世紀の漢文大蔵経史を俯瞰的に理解することを目指す。
授業計画	夏学期 第1-3回 漢文大蔵経史の概説 第4-8回 刊本大蔵経の研究史 第9-13回 普寧寺版大蔵経の雕造史 第14-15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1回 復習と概説 第4-8回 普寧寺版大蔵経研究の問題点 第9-13回 普寧寺版大蔵経研究の展望 第14-15回 ディスカッション・総括
授業の方法	講義と関連文献の講読を中心とし、必要に応じて参考資料も配布する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	野沢佳美『印刷漢文大蔵経の歴史—中国・高麗篇』、東京：立正大学情報メディアセンター、2015年。
参考文献	李富華・何梅『漢文仏教大蔵経研究』、北京：宗教文化出版社、2003年。 李際寧『仏経版本』（中国版本文化叢書）、南京：江蘇古籍出版社、2002年。

	京都仏教各宗学校連合会編『新編大藏經—成立と変遷』、京都：法蔵館、2021 年。
履修上の注意	予習・復習と、積極的な授業参加が望まれる。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25027
科目名・単位数	東アジア仏教文献学研究 4単位
科目ナンバリング	7C1-8 (1-3)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	日蓮『立正安国論』を読む
授業の目的・概要	日蓮(1222-1282)の思想的特徴を何う視点はいくつかあるが、その最もきわだったものは歴史的、時代的意識の強さであろう。日蓮は、今日の世界情勢にも似た13世紀当時の内憂外患の日本の社会情勢を憂えて鎌倉幕府へ建白書を提出した。それを契機に彼は迫害の生涯を送ることになるが、彼が臨終まじかに弟子達に講じたのは本書だったという。その意味で日蓮の出発点は本書にあり、終着点も本書だったということであろう。本講は日蓮が当時の天変地異や政治的社会的混乱の原因を何に求め、その対策にどのような事を提言したのか、ということを読み取り、日蓮独自の法華仏教思想の特質を考えたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分に理解し、日蓮の思想を理解することを目標とする。
授業計画	前期の第1講から3講までを、日蓮の事跡、テキストの解説などに当てる。第4講から前期末までに、『昭和定本』テキストのp.209からp.217までを読み、後期にp.217の続きから最後のp.226までを講読する。
授業の方法	担当者を決めて、テキストを最初から読んでいく。参考書も利用しながら文意の把握に努める。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点(授業中の発表を含む)にて通年で評価
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	教場にてその都度指示する。
参考文献	教場にてその都度指示する。
履修上の注意	予習のうえ、出席励行のこと。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25028
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	金曜日 5時限目
担当教員氏名	大久保 良峻 特任教授
授業題目	安然撰『菩提心義抄』講読
授業の目的・概要	安然是天台密教（台密）の大成者として知られ、その業績が日本仏教の諸学匠に与えた影響は頗る大きい。安然が著した教学上の代表的撰述の一つが『菩提心義抄』（『胎藏金剛菩提心義略問答抄』）であり、本書では蔵・通・別・円・密という五教判によって議論を展開している。そもそも、日本の密教は、空海以後、しばらくは台密が主流となる。日本密教という大きな流れを見る上で、安然についての知識を持つことは重要である。安然の教学が台密の綱格となることは言うまでもないが、東密の学匠によっても研究された。また、日本仏教史上、安然の着想による新展開も多いことを認識する。
到達目標	安然の教学について、その意義や特色を理解する。仏教漢文に習熟する。
授業計画	巻一の冒頭から講読する。訓読、及び口語訳を行う。 夏学期 第1回 天台密教概説 第2回 『菩提心義抄』概説 第3回～第15回 『菩提心義抄』講読 冬学期 第1回～第14回 『菩提心義抄』講読 第15回 総括
授業の方法	発表形式とするので、担当者は各自の興味や習熟度に従って、必要と思われる補助的資料を準備する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の内容を予習する。予習・復習に、4時間をかけること。
テキスト	大正新脩大藏經 75 所収『胎藏金剛菩提心義略問答抄』
参考文献	大久保良峻『台密教学の研究』（法蔵館）。 その他については、教場で指示する。

履修上の注意	原典の忠実な読みを心掛けてください。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25029
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	木曜日 3時限目
担当教員氏名	落合 俊典 教授
授業題目	五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』と地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』（その二）
授業の目的・概要	平安初期書写と想定される五島美術館蔵の『注金剛般若波羅蜜經』は近年注目された文献資料である。かつて川瀬一馬博士が本資料を調査されたが書写年代についての考察に止まり、成立年代や著者等についての考察は行われていなかった。筆者と青木佳伶氏の調査で詳細な法量が分かり、本文の研究に着手したが全容の解明にまでは至っていない。 今までの取り組みでは永淳二年（683）に地婆訶羅が訳した『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』（以下『不壞仮名論』）と密接な関係があると分かってきた。この翻訳は宇井伯壽博士が研究と訓読をされている（『大乘仏典の研究』岩波書店）。それに依れば著者は明らかにインド仏教中観派の学匠（功德施 <i>Guṇadatta</i>, <i>Śrīdatta</i>）であるという。この功德施なる人物は玄奘と義浄のナーランダ寺院滞在の狭間に活躍したようであり、義浄の報告の中に人名を記していない中観派の学匠ではないかと論証されている。 もしこの説が正しいとすると地婆訶羅訳『不壞仮名論』は当時におけるインド中観仏教の論書の翻訳であるとなるが、五島美術館蔵の『注金剛般若波羅蜜經』はその影響下に生まれた研究書となる。本演習では新出文献の解読作業がどのように行われるのか解説するとともに未解読箇所への解明に参加者はチャレンジして欲しい。 なお、本講は昨年度の続きである。
到達目標	新出の文献を解読する作業には広範囲な知識と方法論が求められる。文献資料の書写年代に始まり、文献そのものの成立年代そして著者を探り確定していかなければならない。書写年代に関しては紙質・墨・法量・書法等の分野から考究し、偽写本の可能性を否定し、古代もしくは中世の文献と想定される段階まで必要である。次に文献資料を読み始めていく上で異体字・書写文字を現行の文字に比定し翻刻を行う。作業としては第一段階で全文の翻刻を行う。難読・未詳文字などは取り敢えず■等の記号で処理し進める。初期の全文翻刻のデータを利用して次に未解読文字の前後を比較して一字一字少しでも確定していく。
授業計画	昨年度参加した学生また参加しなかった学生も含めて再度復習をかねて概説していく。夏学期①概説1：『金剛般若經』釈論の研究史。②同概説2。③地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』。④七～八世紀インド中観派の動向。⑤五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』読解研究。⑥同2。⑦同3。⑧同4。⑨同5。⑩同6

	冬学期①夏学期の続き。五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』の読解研究 7. ②同 8. ③同 9. ④同 10. ⑤同 11. ⑥同 12. ⑦同 13. ⑧同 14. ⑨同 15. ⑩同 16「. ⑪同 17. ⑫同 18. ⑬同 19. ⑭同 20. ⑮まとめ。
授業の方法	受講生が担当した翻刻・訓読・訳注のレポートについて適宜問題点を指摘し、レベルアップを図る。また関連資料を図書館その他から取り寄せ、その解説を行い、実践的かつ重厚な読解力研究力を養成していく。
教員から学生へのフィードバック方法	担当箇所を発表後に整理した訳注を教員へ提出する。教員はさらにその校正を行い返却する。数回の校正によって訳注が一定程度に完成することを期す。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	レポートに平常点（授業への積極参加）を加味して通年評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には文献資料の読解だけでなく、大学図書館・講義室に配架されている基本的図書を複写して翻刻・訓読・訳注を完成させる。それに要する時間は2時間以上。復習にあたっては講義中に指摘された箇所や参考文献を渉猟し知識を定着させる。2時間以上復習に当てる。
テキスト	五島美術館蔵『注金剛般若波羅蜜經』を随時プリントする。ただ本プリントの扱いは細心の注意を要する。不用意に他人に見せたり複写させたりすることは慎むように。 大正蔵本地婆訶羅訳『金剛般若波羅蜜經破取著不壞仮名論』（各自コピーすること）
参考文献	宇井伯壽著『大乘仏典の研究』（岩波書店。1979年）。 梶芳光運著『金剛般若経』（仏典講座6。大蔵出版。1972年）。
履修上の注意	研究テーマに関する事項をよく調べ、十分な学術知識の習得に努めることが望ましい。新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症の状況如何では適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25030
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	金曜日 4時限目
担当教員氏名	池 麗梅 教授
授業題目	東アジア仏教文献講読
授業の目的・概要	東アジア仏教文献の代表的なテキストを順次取りあげていくが、今年度は『続高僧伝』（巻27「遺身篇」）を講読する。『続高僧伝』は、中国中世の歴史・文化・思想にとどまらず、東アジア仏教文化史・文化交流史を研究する上で、不可欠な基礎的文献である。この授業は、日本古写経テキストを使用して、同書のテキスト変遷、僧伝成立の歴史的・思想的背景、戒律思想の展開などを総合的に検討することを目的とする。
到達目標	写本テキストの翻刻・校訂などの基礎訓練を行い、漢文の現代語訳に習熟し、テキスト内容を正確に理解した上で、的確な解釈もできるようになることを目標とする。
授業計画	夏学期 第1-2回 『続高僧伝』の概説 第3-14回 「釈僧崖伝」講読 第15回 ディスカッション・総括 冬学期 第1-2回 復習と概説 第3-14回 「釈大志伝」講読 第15回 ディスカッション・総括
授業の方法	あらかじめ担当者を決めて、講読していく。テキストを翻刻・校訂・現代語訳するだけでなく、内容の分析、その背後にある思想的背景を併せて考察する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業の内容については事前に知らせるので、これを予習しておくこと。授業後、その復習をして、まとめ直すこと。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	金剛寺本・興聖寺本・七寺本『続高僧伝』（巻27「遺身篇」）
参考文献	必要に応じて関連資料を配布して利用する。

履修上の注意	積極的な授業参加と活発な討論が期待される。担当者は発表原稿を人数分用意すること。コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがある。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25031
科目名・単位数	東アジア仏教文献学演習 4単位
科目ナンバリング	7C2-8 (1-3)
時限	木曜日 4時限目
担当教員氏名	藤井 教公 教授
授業題目	『維摩経文疏』研究 2025
授業の目的・概要	本講は、天台智顗が晩年に晋王廣に献上するために著したとされる『維摩経文疏』を講読し、それによって智顗の教学思想を検討することを目的とする。本書は智顗の最晩年の思想を窺うことのできる重要な『維摩経』注釈書であるが、同じ智顗の『維摩経玄疏』や湛然『維摩経略疏』などに比べてこれまで余り顧みられておらず、国訳もまだない。したがってまず文献を正確に読み進めていくことが必要なので、国訳の訳注原稿を作成しながらその原稿の検討を行うことにしたい。
到達目標	テキストとその注釈書を読んで、漢文訓読に慣れて習熟するとともに、その内容を受講者自身の努力によって十分理解することを目標とする。
授業計画	初めての受講者がある場合、『維摩経文疏』についての概略を講義し、その後に受講者の原稿発表という形式で演習を行う。したがって受講者は予め分担を決め、一定の書式で原稿を作成し、授業の際にその原稿を検討し、訂正して確定校を作成する。それがある程度の分量に達したならば、本学の研究紀要などの媒体に発表することにした。本年度は2024年度の続き部分から講読する。 第1～2講 『維摩経文疏』の解題。 第3～15講 テキスト巻8の最初(511b)から515c16まで。 第16～30講 続き部分から巻9の520c尾まで。
授業の方法	演習形式でテキストを講読する。ローテーションを決め、毎回の発表者は分担部分の原稿を作成し、教場でそれを発表する。発表原稿はその場で検討し、添削修正し、それを本講における受講者全員の共通理解とする。 コロナウイルス感染の状況によっては、授業の形態を対面式からオンライン方式に切り替える可能性もある。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること

具体的な内容及び必要な時間	
テキスト	『新纂大日本統蔵経』第十八巻所収の『維摩経文疏』をも智いる。
参考文献	教場にて指示する。
履修上の注意	出席励行のこと。発表者は必ず原稿を用意し、受講者全員に配布すること。
連絡方法	初回授業の教場にて指示する。

科目番号	25032
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と生命倫理） 2単位
科目ナンバリング	5-2（1-3）
時限	集中講義（夏学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教学と生命倫理
授業の目的・概要	人工授精や臓器移植など生命に関わる技術の進展は現代の生命科学の大きな達成であるが、それが人間生活にもたらす意味については哲学や法律などさまざまな分野から問題提起がなされている。この問題を仏教との関わりにおいて把握するのがこの授業の目的である。はじめに生命倫理をめぐる諸問題について概観し、次いで具体的な問題を採り上げて、仏教の生命観の理解を試みる。
到達目標	・生命倫理に関わる現実の諸問題が多岐にわたることと、それに対してさまざまな思想的アプローチが可能であることを理解する。 ・生命倫理の問題が仏教の中にどのように位置づけられるかということについて、理解を深める。
授業計画	1. 生命倫理と科学技術 2. 医療倫理の現状（1）：QOLとSOL 3. 医療倫理の現状（2）：共同意思決定 4. 仏教と現代の倫理思想（1）：義務論と帰結主義 5. 仏教と現代の倫理思想（2）：徳倫理 6. 仏教と不殺生（1）：Keown 7. 仏教と不殺生（2）：Schmithausen 8. 仏教と社会倫理 9. 仏教と個人倫理 10. 「生殖医療」 11. 「受胎」 12. 「自殺」 13. 「脳死」 14. 「安楽死」 15. 仏教と生命倫理
授業の方法	上記授業計画の内容に従って関連資料を配付して概略を説明し、討論を行いながら知識を深めていく。討論のなかで新しいテーマが出てきたときは、関連する資料を追加して次の回で扱う。授業の各回を通じて、いま問題にしている事項が仏教思想においてどこに位置するかという体系的な観点を考慮する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中あるいはメールによって個別にコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	Keown, Damien. : Buddhism and Bioethics. Palgrave 2001. 和辻哲郎『原始仏教の実践哲学』（和辻哲郎全集第5巻）
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25033
科目名・単位数	近現代仏教研究（仏教学と環境問題） 2単位
科目ナンバリング	6-2（1-3）
時限	集中講義（冬学期） ※日程は、別途お知らせします
担当教員氏名	土山 泰弘 講師（元埼玉工業大学教授）
授業題目	仏教学と環境問題
授業の目的・概要	この授業の目的は、環境問題について仏教の視点から検討を加えることである。はじめに現代の環境問題を概観し、この問題の背景にある科学主義的な思考について、思想史的な立場から批評を行う。次いで仏教の多様な自然観とそれを支える価値意識について理解を試み、併せてインドの思想伝統における仏教倫理の特質について考察する
到達目標	・環境問題に対してアプローチするときには、価値論的な視点が重要であることを理解する。 ・現代の環境倫理が提起する諸問題について、仏教独自の価値意識を考慮しながら理解を深める。
授業計画	<環境問題と環境倫理> 1. 現代の環境問題 2. 「沈黙の春」 3. 水俣病 4. 福島原発事故 <仏教の自然観> 5. 非暴力 6. 慈しみ 7. 無執着 8. 如実知見 <仏教学と自然倫理> 9. 自然の価値（1）：理論的側面 10. 自然の価値（1）：実践的側面 11. 「植物」 12. 「仏性」 <仏教倫理の特質> 13. 一神教の倫理：ゾロアスター教 14. 共同体の倫理：バラモン教 15. 現世放棄者の倫理：仏教
授業の方法	授業は、上に述べた幾つかの大きなテーマに関連する資料を紹介してその概略を説明し、出席者の間で意見を交換しながら個別のテーマに絞り込んで知識を深めるという方法をとる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にコメントする。またはメールにて個別にコメントする。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/

成績評価方法・基準	平常点にて各学期で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習には1時間、復習には3時間の時間をかけること。
テキスト	毎回資料を配布する。
参考文献	阪本(後藤)純子 『生命エネルギー循環の思想 ― 「輪廻と業」理論の起源と形成―』 RINDAS 24, 2015. 原実 「不殺生考」 国際仏教学大学院大学研究紀要 1 (1998) pp.1-37. Schmithausen, Lambert : Buddhism and Nature, Studia Philologica Buddhica Occasional Paper Series VII, The International Institute for Buddhist Studies of the International College for Advanced Buddhist Studies, Tokyo, 2003.
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する。

関連科目

科目番号	2 5 0 3 4
科目名・単位数	民俗学 4 単位
科目ナンバリング	8-4 (1-5)
時限	集中講義（夏・冬学期） ※日程は、別途お知らせします。
担当教員氏名	鈴木 正崇 講師（慶應義塾大学名誉教授）
授業題目	[夏学期] 山岳信仰と地域社会 [冬学期] 聖地と民間信仰
授業の目的・概要	[夏学期]: 山岳信仰の歴史と民俗を日本の霊山ごとに具体的に論じる。仏教がどのように地域社会に定着したかも論題とする。 [冬学期]: 聖地の変貌を民間信仰の実態から論じる。政治や社会の変動を考慮し地域社会の変容を考察する。海外の事例も取上げる。
到達目標	伝承や縁起や口頭伝承などを通じて、現地調査の重要性を認識すると共に、各地の多様性に満ちた実態を理解する。
授業計画	[夏学期] 1, 山岳信仰と仏教, 2, 出羽三山 3, 恐山と東北の霊山 4, 富士山 5, 吉野と大峯 6, 木曽御嶽山 7, 英彦山 8, 早池峯山 9, 鳥海山 10, 戸隠山 11, 立山 12, 石鎚山 13, 伯耆大山 14, 高野山 15, 比叡山 [冬学期] 1, 宇佐と国東 2, 葛城と三輪 3, 女人禁制と山岳信仰 4, 相撲の女人禁制 5, 近代神話と総力戦体制 6, 宗教民族学と総力戦体制 7, 成田山新勝寺 8, 成田山門前町 9, 講と地域社会

	10, 篠栗霊場南蔵院 11, コロナ禍と社会 12, インド北東部、トライブの世界 13, 南インド、カルナータカのプータ信仰 14, スリランカ、王権神話と聖地 15, インドネシア、バリ・アガの村
授業の方法	講義は ppt で進める。参考文献の一部は research map にアップして、ダウンロードできるようにする。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に質問時間を設けて対応する。後日、個別に相談などをメールで受け付ける。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習はテキストや参考文献を読み込む。各々2時間ずつ。
テキスト	『山岳信仰—日本文化の根底を探る』（中公新書、2015）、『女人禁制』（講談社学術文庫、2022）
参考文献	『神と仏の民俗』（吉川弘文館、2001）、『熊野と神楽—聖地の根源的力を求めて』（平凡社、2018）、『女人禁制の人類学—相撲・穢れ・ジェンダー』（法蔵館、2021）、『日本の山の精神史—開山伝承と縁起の世界』（青土社、2024）、『山岳信仰と修験道』（春秋社、2025）。『ラーマヤナの宇宙—伝承と民族造形』（春秋社、1998）、『神話と芸能のインド』（山川出版社、2008）、『南アジアの文化と社会を読み解く』（慶應義塾大学出版会、2011）、『アジアの文化遺産—過去・現在・未来』（慶應義塾大学出版会、2015）。
履修上の注意	文献だけでなく、フィールド資料を重視する。
連絡方法	初回の授業で説明する。

仏教学特殊研究

科目番号	25101
科目名	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0 (1-5)
時限	水曜日 3時限目 (夏学期)
担当教員氏名	代表者： 藤井 教公 教授 大久保 良峻 特任教授 落合 俊典 教授 斉藤 明 特任教授 池 麗梅 教授 デレアヌ フロリン 教授 幅田 裕美 教授 藤井 教公 教授 荒見 泰史 講師 (広島大学教授 5月14日担当) 長谷川 岳史 講師 (龍谷大学教授 5月21日担当) 保坂 俊司 講師 (中央大学教授 7月 2日担当)
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	履修単位は設定されていない。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には2時間、復習には2時間程度をかけること。
履修上の注意	全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

科目番号	25102
科目名	仏教学特殊研究
科目ナンバリング	10-0 (1-5)
時限	水曜日 3時限目 (冬学期)
担当教員氏名	代表者： デレアヌ フロリン 教授 大久保 良峻 特任教授 落合 俊典 教授 斉藤 明 特任教授 池 麗梅 教授 デレアヌ フロリン 教授 幅田 裕美 教授 藤井 教公 教授 名和 隆乾 講師 (大阪大学講師 10月15日担当) 月本 雅幸 講師 (東京大学名誉教授 11月12日担当) 佐久間 留理子 講師 (大阪観光大学教授 2月 4日担当)
授業の目的・概要	本学教員、並びに外部講師と受講者の学生諸君が、現在取り組んでいる仏教学上の研究テーマ、トピックについて研究発表し、それについて全員による質疑応答を行う。その討議を通じて各人が仏教に対する知見を深めることを授業の目的とする。またこの授業を学生諸君にとっての学会発表、論文作成の訓練の場とする。
到達目標	学生諸君が自ら発表し、あるいは他の受講者の発表を聞いて、研究発表に慣れるとともに、自身の発表の態度や技術などの向上を目指す。また、仏教学上の諸問題について知見を広め、深い理解に達することを目標とする。
授業計画	初回の時に、教員、学生ともに発表の順番と日程を決め、各自一時間内外を持ち時間として、全体で質疑応答、討論を行う。
授業の方法	初回の授業の時に予め発表者を決める。発表予定者は配付資料などを各自が用意してパワーポイント、スライド、紙資料など、各自それぞれの方法を用いて発表する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントする他、レポート等は添削して返却する
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	履修単位は設定されていない。
準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要な時間	事前に発表資料やテーマが明らかになっている場合、予習には2時間、復習には2時間程度をかけること。
履修上の注意	全学生は自己の研究上に必須のトレーニングと心得て、必ず出席すること。 コロナウイルスの感染状況等により適宜オンラインにて授業を行うことがあります。
連絡方法	初回の授業で説明する。

留学生のための日本語

科目番号	25103
科目名・単位数	日本語 I 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	火曜日 2時限目・金曜日 2時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師（東京科学大学非常勤講師）
授業題目	初級・中級前期の日本語 ―初級文型とその応用―
授業の目的・概要	日本語 レベル初級及び中級初期（学習時間 0～400 時間未満）の学生を対象に行う。 日本語の基本構造を習得し、四技能（話す・聞く・読む・書く）を養う活動へ発展させる。自分の意見をまとめ発表する力を身につける。 日常生活や学内での基本的な活動が問題なく行える日本語コミュニケーション能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N3 または N2 レベル程度の日本語の力の獲得
授業計画	夏学期 第1回～第4回 初級文型・「話す・聞く」技能 第5回～第8回 初級文型・「読む・書く」技能 第9回、第10回 初級文型・四技能 第11回～第15回 中級文型・四技能 冬学期 第1回～第3回 中級文型・四技能 第4回～第7回 総合・読解・論述 第8回～第13回 総合・読解・論述 第14回、第15回 総合・プレゼンテーション
授業の方法	学習者の日本語レベルに応じたテキストを使用する。必要に応じてクラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットを記してもらい、教師からはそれに対するフィードバックなどを記録していく。初級前半においては、予習確認の小クイズ、文法の学習、応用練習を行う。読解の授業では語彙クイズ、読解、文法確認、討論、作文、発表の順に行う。また、毎回宿題を課す。
教員から学生へのフィードバック	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。

ク方法	
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『みんなの日本語初級Ⅰ，Ⅱ』スリーエーネットワーク 各国語版文法解説 『TRY! 日本語能力試験N3 文法から伸ばす日本語』アスク出版 『中級へ行こう』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるようにPCなどを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	2 5 1 0 4
科目名・単位数	日本語Ⅱ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	宮田 聖子 講師（東京科学大学非常勤講師）
授業題目	中級後期・上級の日本語 ―学術的活動へー
授業の目的・概要	日本語レベル中級後半（初級基礎文型の習得が終了しており、学習時間が概ね450時間程度）以上の学生を対象に行う。 学術論文の読解ストラテジーを獲得する。また、討論、論評する活動を通してテーマについて論述するスキルと、それを口頭発表するプレゼンテーションスキルを養う。 日本語能力試験に向けて総合的なスキルを伸ばす。 日本での研究活動が十分に行えるより高度な日本語能力の獲得を目指す。
到達目標	日本語能力試験N1 レベルまたはそれ以上の日本語力の獲得
授業計画	夏学期 第1回～第7回 文法 第8回～第15回 読解・能力試験対策 冬学期 第1回～第7回 能力試験対策 第8回～第12回 作文指導 第13回～第15回 プレゼンテーション指導
授業の方法	クラウド上の共有ドキュメントに学生からのアウトプットを記す。それに対するフィードバック、重要項目の解説などを教師から加筆し記録していく。 日本語能力試験対策、読解、文法事項確認、討論、作文を行う。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中に、あるいはクラウド上のドキュメントにて、基本的にはクラスで共有して行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必	前回の授業内容を復習し、宿題およびこれから行われる授業の概要を予習する。予習、復習に4時間をかけること

要な時間	
テキスト	受講生の日本語レベルに応じて決定する。
参考文献	『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク 『上級日本語学習者対象 アカデミックライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク
履修上の注意	授業はクラウド上の共有ドキュメントを使用して行う。各自、インターネットにアクセスし共有ドキュメントに日本語を打ち込めるようにPCなどを持参すること。 出席励行。宿題を必ず提出すること。
連絡方法	初回の授業で説明する

留学生のための古文・漢文読解

科目番号	25105
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅰ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	水曜日 4時限目
担当教員氏名	田戸 大智 講師（早稲田大学非常勤講師）
授業題目	仏教漢文読解入門
授業の目的・概要	仏教では後漢の頃より仏典の漢訳が開始され、多くの漢訳仏典やそれにもとづく註釈書などが生み出された。仏教思想を解明するためには、正確な読解が要求されることは贅言を要しない。 本講義では、伝統的な訓読法を用いて、仏教漢文が読解できるようになることを目的としている。日本では漢文を日本語で解釈するための訓読法が体系化され、仏教漢文もまたこの方法によって理解されてきた。訓読法を習得すれば、文法構造を把握する能力が高まり、感覚的に読むことで起きる間違いを防止できる利点がある。特に日本仏教研究を行うためには、訓読法を習得することが必須である。 そこで、訓読による仏教漢文の読解を修練していくために、前期ではまず、テキストにもとづいて基本文法を確認する。次に後期では基本文法を適宜参照しながら、様々な仏教漢文を取り上げ、実践的に訓読法を学習していきたい。後期では、経典や論書、中国の伝記史料、日本の仏教漢文などを読み進めていく予定である。
到達目標	日本の凝然（1240～1321）が撰述した『八宗綱要』上下2巻（大日本仏教全書3所収）を訓読できる能力の修得を到達すべき目標としたい。
授業計画	前期 1 ガイダンス、訓読の必要性 2～3 仏教漢文の学習方法、漢和辞典・仏教辞典の使用法と実習 4～5 テキストとプリントの実習（1～3章） 6～7 テキストとプリントの実習（4～5章） 8～9 テキストとプリントの実習（6～7章） 10～11 テキストとプリントの実習（8～9章） 12～13 テキストとプリントの実習（10～11章） 14～15 テキストとプリントの実習（12～14章） 後期 1 ガイダンス 2～3 『法苑珠林』・『魏書釈老志』 4～5 『過去現在因果経』・『金剛般若経』 6～7 『理惑論』・『沙門不敬王者論』 8～9 道宣『続高僧伝』・道宣『集神州三宝感通録』

	10~11 一行『大日経義釈』・曇鸞『浄土論註』 12~13 法藏『華嚴五教章』・基『大乘法苑義林章』 14~15 諦観『天台四教義』・凝然『八宗綱要』など
授業の方法	毎回配付する資料にしたがって授業を進める。漢文はすべてノートに書き写し、返り点を付けたり書き下し文に直す作業を繰り返し行う。また声に出して読むことで漢文のリズムを習得する。語彙が不明である場合は、常に漢和辞典や仏教辞典で調べるよう訓練する。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中にその都度口頭でコメントし、訓読の確認を行う。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	講義で配付した資料は、予習と復習を通して繰り返し読み込むことが実力の向上につながる。訓読の基本文法はテキストを適宜参照して解説するが、演習問題は各自復習して頂きたい。予習、復習に4時間をかけること。
テキスト	『句形演習 新・漢文の基本ノート〈二色刷〉』（日栄社、1998）を主なテキストとし、『新・要説文語文法〈五訂新版〉』（日栄社、2015）も必携とする。この他、プリントを配付する。
参考文献	加地伸行『漢文法基礎－本当にわかる漢文入門－』（講談社学術文庫、2010）、金岡照光『仏教漢文の読み方』（春秋社、1978）、木村清孝編著『仏教漢文読本』（春秋社、1990）、その他、各辞典などは教場にて指示する。
履修上の注意	①授業では漢文訓読を実習形式で行うので、専用ノートを準備して予習と復習を必ず行う。 ②電子辞書や電子機器類の使用は禁ずる。語彙は必ず辞書で調べるようにする。 ③「古文・漢文読解Ⅱ」の講義を併せて聴講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

科目番号	2 5 1 0 6
科目名・単位数	古文・漢文読解Ⅱ 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	水曜日 5時限目
担当教員氏名	小島 裕子 講師（東京都立大学非常勤講師）
授業題目	仏典訓読初学講座
授業の目的・概要	仏典の漢文は記載言語として表わされた古典語（文語）で、たとえ現代中国語を母国語として自在に使用しているとしても、その特殊な文章構造の分析を介した完全な理解という点では次元を異にしよう。こと日本においては、漢字文化の受容とともに、その言語表記を享受するため、日本語によって漢文の文章構造を分析し、正確に文意を解釈するための学問が古来より培われてきた。「訓読」である。 本講座は、漢文訓読のなかでも、特に寺院文化圏における学僧が行ってきた仏典訓読の学問を視野に入れ、とりわけ学ぶ機会の稀な「漢訳仏典に対する伝統的な訓読法」の習得をめざす。特に、日本語としての文体を整える上で決め手となる「文語文法」（経典読解に特化した）の解説に重点を置いて授業を行う。 実例文献に基づく訓読法（訓点を付して訓読する方法）の教授に併行して、訓読に有用な主要辞典（仏教系・国語系）の使用方法について教示したり、訓読に対する理解を深めるための「日本語表記の変遷」などにも言及したりすることで、文献資料学を究める受講者各自の研究の将来に資する講義でありたい。
到達目標	貴重な仏教文献資料を詳細に読み解いてゆくために必要とされる日本語表記の習得、各種仏教辞典の特徴を把握し、要語項目を読解して実際の研究に生かす能力を身につけることをめざす。 漢文の白文に訓点を付す方法を習得して訓読法の実践に備えるとともに、訓読文の決め手となる文語文法を身に着ける。
授業計画	《夏学期》 1 初回到授業の指針を述べる。「望月仏教大辞典」から要語を選び、引用された漢文の訓読体を正しい文法理解によって読むことができるか、また旧漢字の表記に対応できるかなどの問題定義を行ない、以後の具体的な授業に臨む姿勢を確認する。 2 「訓読」という学問① 大正新脩大蔵經の漢訳仏典に対する国訳一切經・国訳大蔵經・新国訳大蔵經・仏典講座等の紹介、解説。 3 「訓読」という学問② 具体的に学僧が訓点を付した写本・版本を紹介し、「訓読」とは何かを学ぶ意識を備える。 4 自ら「訓読」を行うために必要な主たる仏教学系辞典、および国語学系辞典の紹介を行なった上で、活用の実践に入る。 以下、5回より演習と講義 5-9 仏典に頻出する【「動詞活用表」作成プロジェクト】

	義浄訳『金光明最勝王経』（影印）を訓読法習得のための底本に据え、各品の訓読箇所を動詞を抽出、訓読の仕方について実際に辞書を引きながら学び、活用法を詳細な文法の解説を通して習得する。以下、動詞表は講義で遇した諸經典内の動詞についても随時書き込みを加え、年間を通して完成。 10-12 仏典に頻出する仮定表現について、動詞の活用の型を徹底的に学び、それに伴う助動詞も同時に習得する。 13-15 仏典に頻出する受身・使役などの助動詞の様々な事例・訓読、および関連の文法を習得する。 《冬学期》 夏学期に引き続き、義浄訳『金光明最勝王経』（影印）を底本に以下の項目を実践する。 16-17 仏典の型「六時成就（如是・我聞・一時・佛・在某所・与某衆俱）」、「白佛言」、「白〜曰」などを学ぶ。 18 仏典に頻出する副詞（否定・時間・範囲・程度・状態・語気）について概論的な講義を行い、以後の講義に備える。 19-21 仏典に頻出する「否定副詞」事例・訓読、関連の文法 22-24 仏典に頻出する「時間副詞」事例・訓読、関連の文法 25-27 仏典に頻出する「程度副詞」事例・訓読、関連の文法 28-29 仏典に頻出する「状態副詞」事例・訓読、関連の文法 30 年度内総括 今年度の「動詞活用表」の完成
授業の方法	講義と演習（習熟のための練習）を繰り返すことで、受講者のリテラシーの向上をはかる。年間を通して、一般古典の文法書に挙がる用例では不十分な「仏典に頻出する動詞」について、その活用と仮名訓を一覧できる独自の【「動詞活用表」作成プロジェクト】を受講生とともに遂行、当該教室における成果として構築してゆく。表の作成は文字の記入のみに止まらず、声に出して復唱する実践を伴うことで、記憶的な効果へと繋ぐ。
教員から学生へのフィードバック方法	授業内に必要に応じてコメントをするほか、メールなどでの相互連絡の上、個別に対面に対応することも可。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	各自、毎回の講義で配布する参考資料をファイリングし、受講前の予習として必ず目を通した上で授業に参加すること。蓄積されゆく資料を重ねて通読することを通して、次第に理解は深まる。受講後は必ず授業内容を反芻し、次回の授業に備えること。準備学習として、予習に 120 分、復習に 120 分程度の時間を要する。
テキスト	訓点入りの仏典資料（影印）を配布し、「訓読とは何か」を理解するための主要テキストとする。補足テキストとして望月信亨『仏教大辞典』の要語項目の配布。文語文法の解説書として『新・要説文語文法

	〈五訂新版〉』（日栄社）、辞書として『新版古語辞典〈机上用〉』（角川書店）を各自の必携とする。
参考文献	中村元-仏教語大辞典、望月信亨-仏教大辞典、織田得能-仏教大辞典、岩本裕-日本仏教語辞典など各種仏教系辞典。日本国語大辞典-小学館、新漢和大字典-学研、日本語文法大辞典-明治書院など各種国語系辞典。異体字やくずし字辞典などの字典類、および古辞書類など。講義時に随時、紹介してゆく。
履修上の注意	本講座は、仏教文献資料学を遂行するために必要な基礎を学ぶ留学生の読み書き、リテラシーの向上をめざして開設する。日本語習得のステップを踏みながらの受講であることを配慮し、説明などは懇切に行ってゆくことを心がけるが、基礎を修めるということにおいて、日本語を母国語とする者と何らレベルの上で変わらぬ有益な内容を提示することを断っておきたい。 併設の「古文・漢文読解Ⅰ」とともに受講することが望ましい。
連絡方法	メール（初回の授業で確認する）

未修者のためのサンスクリット語

科目番号	25107
科目名・単位数	サンスクリット語 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	月曜日 3時限目
担当教員氏名	宮本 久義 講師 (元東洋大学教授)
授業題目	サンスクリット語入門
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法を学習し、インド哲学仏教学文献の読解力を身につけることを目的とする。サンスクリット語はインドの文学、思想、宗教を育み、サンスクリット文化という言葉があるように、インド人が構築した有形・無形の価値観の理解に必須の言語である。インドではサンスクリット語の習得には三生かかるといわれている。これは大分誇張されたことではあるが、実際文法規則が多いのは事実である。しかし、他の言語と同様、覚える規則は最小限に絞り、系統立てて学習することにより、十分習得可能な言語である。本講は初学者のために開講するが、復習のために参加したいという受講生も対象とする。
到達目標	サンスクリット文法の基礎を習得し、文法書と辞書を使用して各自が研究対象とする文献を研究する際の読解力を養うことを目標とする。
授業計画	夏学期 第1回：インドの言語について 第2～3回：文字と発音 第4回：母音の階梯、絶対語末 第5～7回：連声法 第8～10回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹 第11～13回：名詞・形容詞の変化 -a- 語幹以外の語幹 第14～15回：代名詞、数詞 冬学期 第1回：動詞の概要 第2～5回：第1次活用法（現在・アオリスト・完了・未来） 第6～8回：第2次活用法（受動・使役） 第9～11回：準動詞（過去分詞など） 第12～13回：複合語 第14回：韻律 第15回：総括
授業の方法	長柄行光著『サンスクリット文法』に従って解説する。補足すべき点があれば、資料を配布する。文法事項解説の進み方に合わせて、練習問題にも取り組んでもらう。
教員から学生へのフィードバック	授業中にその都度口頭でコメントするほか、レポート等は添削して返却する。

ク方法	
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	予習・復習を合わせて少なくとも4時間はかけてほしい。
テキスト	長柄行光著『サンスクリット文法』2002年。私家版（非売品）なので、受講生にはこちらで配布する。
参考文献	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes, Harvard University Press, 1884.（リプリント版が廉価で入手可能） 辻直四郎『サンスクリット文学史』岩波全書、1973年
履修上の注意	文法の学習において、予習はその日の授業で何を学ぶのかを予め把握しておく作業である。それゆえ長い時間をかける必要はないが、わからない点を押さえておくことが肝要。一方、復習は習ったことが文法規則全体のどの部分を構成するのかをしっかりと押さえ、さらに最小限暗記すべき規則を暗記する努力をしなければならないので、十分な時間をかけることが望ましい。また語学習得という授業の性質上、欠席はできる限りしないように。受講生は疑問点が残らないように、何度でも質問していただきたい。
連絡方法	初回の授業で説明する

科目番号	25108
科目名・単位数	サンスクリット語（中級） 4単位
科目ナンバリング	10-4（1-5）
時限	火曜日 3時限目
担当教員氏名	須藤 龍真 講師（早稲田大学高等研究所講師）
授業題目	サンスクリット文献講読
授業の目的・概要	サンスクリット語の文法規則を一通り学習し終えた履修者を対象に、平易なサンスクリット文献の講読を通して、文法規則の定着や辞書・文法書の活用方法の習得を促すことが本授業の目的である。仏教を含む古典インド世界における宗教・哲学、社会・文化に広く親しむことは各自の研究領域の幅を広げることに繋がる。本授業では、散文・韻文含む多種多様なテキストを講読する。
到達目標	インド系文字の特徴や文法規則・連声をよく理解し、文法書や辞書を活用して、基本的なサンスクリット文を分析し、訳出する能力を養うことを目標とする。
授業計画	【夏学期】 ○はじめは教科書（C. R. Lanman, <i>A Sanskrit Reader</i>）の語彙集を活用しながら、比較的平易な文学作品（前年度：ナラ王物語）の講読を行い、基本的な辞書の引き方・文の構造の分析方法を丁寧に確認していく。 1: 授業説明、各自の学習状況の確認、講読箇所を選定 2-14: テキスト講読 15: テキスト講読、冬学期への橋渡し 【冬学期】 ○様々なジャンルのテキストの講読を通して、どのようなサンスクリット文献にも対応できる環境を整える。例として、前年度は、医学書、演劇論書、美文学（＋注釈書）、性愛文献、政略論書、密教タントラ、哲学綱要書の重要箇所を2～3回ずつ講読した。 1-15: テキスト講読
授業の方法	○受講者全員による講読テキストの輪読（発音・和訳・解釈・議論）。テキストの講読箇所は、各学期毎に、学習状況や受講者の関心にあわせて初回授業において選定する。また、冬学期の最後数回では、各自担当制で、講読資料の作成を行ってもらう。 ○各種資料や各自の和訳の共有方法は授業内で説明する。 ○内容を正確に理解することはもちろんのこと、一意あるいは様々な解釈が生じる根拠を特定するプロセスに重きを置く。 ○デーヴァナーガリー文字に不慣れな場合には、ローマ字翻字を参照することも可能だが、冬学期までには独力で読解できるようになることが望ましい。
教員から学生へのフィードバック	○授業中にその都度口頭でコメントする。また、必要に応じて、個別に対面あるいはメールでの相談にも対応する。

ク方法	○任意にテキストファイルやノートの提出があった場合には、添削した上で返却する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点にて通年で評価する。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	授業はあくまで確認の場であり、サンスクリット文の構造を自分自身で分析することが最も肝要である。十分な予習を行った上で、積極的な授業への参加を期待する。また、復習を通して、文法規則の定着をはかること。予習に 180 分、復習に 60 分を見込む。
テキスト	Charles Rockwell Lanman, A Sanskrit Reader: Text and Vocabulary and Notes, Harvard University Press, 1884. その他、授業内で適宜指示する。
参考文献	辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店） その他、授業内で適宜紹介する。
履修上の注意	サンスクリット語初級相当の文法規則に関する知識があれば、履修者の制限は設けない。
連絡方法	初回の授業で説明する

未修者のためのチベット語

科目番号	25109
科目名・単位数	古典チベット語 4単位
科目ナンバリング	10-4 (1-5)
時限	金曜日 5時限目
担当教員氏名	石川 巖 講師（中村元東方研究所専任研究員）
授業題目	初級チベット語文法
授業の目的・概要	チベット語の古典を音読し、翻訳しうるようにするために、実践的なチベット語文法を講ずる。間々、背景としてのチベット文化についても解説しながら進めていく。
到達目標	チベット語の古典を音読し、古典一般に対し基本的な翻訳ができるようにする。
授業計画	夏学期 1回：チベット文字 2回：冠字と添足字 3回：添前字、添後字、再添後字 4回：辞書の引き方 5回：名詞、形容詞、代名詞 6回：不定助辞、複数辞、数詞、序数詞 7回：属格助辞の体言用法、結合接続辞、etc 辞、類例辞 8回：略形化と並置 9回：認定の叙述 10回：存在の叙述 11回：動詞と具格助辞の体言用法 12回：於格助辞の体言用法と否定辞 13回：動名詞と分詞 14回：従格助辞の体言用法 15回：試験 冬学期 1回：総括詞 2回：選択接続辞 3回：具格助辞と na 以外の於格助辞の用言用法 4回：於格助辞 na の用言用法と助動詞構文 5回：名詞複合語を形成する bya、byed、mkhan 6回：従格助辞の用言用法、未完接続辞、結合接続辞 7回：連動接続辞 8回：中断、反戻の語と古典の実際 9回：引用と言及の助辞 10回：関係詞と命令法 11回：時の接続詞と過去・完了の助動詞

	12 回：未来、進行、経験、使役の助動詞 13 回：読解練習①經典の書き出し 14 回：読解練習②問答の文 15 回：試験
授業の方法	プリント教材を配布して講義を行いつつ受講者に練習問題に当たらせる。
教員から学生へのフィードバック方法	授業中その都度コメントする他、メールで質問も受け付け、メールで回答しつつ授業でも紹介する。
学位授与方針との関連	https://www.icabs.ac.jp/about/policy/
成績評価方法・基準	平常点（授業中の発表を含む）およびテストにて通年で評価。
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及び必要な時間	前回の授業内容を復習し、これから行われる授業の概要を予習する。 予習、復習にそれぞれ 2 時間をかけること。なお、練習問題や読解練習の予習については時間内に終わらなくとも途中放棄せず、該当の回のもの一応全て終えること。
テキスト	プリント配布。
参考文献	山口瑞鳳『チベット語文語文典』春秋社、2002 年。
履修上の注意	特になし。
連絡方法	初回の授業で説明する